

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500061	事業の開始年月日	平成19年4月1日
		指定年月日	平成19年4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん		
所在地	(232-0057) 横浜市南区若宮町4-81-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	26名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	2024. 3. 8	評価結果 市町村受理日	令和6年10月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様には伸び伸びと生活していただけるように支援しています。コロナ禍により不自由な期間も長く、ストレス等を含め心身共に健康に留意しながら安心して安全に暮らせるホーム作りを心がけています。

・日々の生活で利用者様一人一人が選択する力、考え、希望等お気持ちを大切にしながらケアに取り組むことを常に目標にしています。また、ご家族様が抱えている希望、不安、心配等思いを相談しやすい環境にいくために、小さなことでも日頃よりコミュニケーションの一環としてお伝えするようにしています。その為、ご家族の希望に合わせ多様なツールを用いています。

・重度化や終末期に対応出来るよう、各自のかかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携を強化しています。また、重度化してもできる限りホームでの生活を支えていく為、医療連携による施設で出来る事を選択肢を増やし、職員の能力が向上のための勉強会の開催、講習参加、資格習得のバックアップ等の強化に努めています。

・職員の意識向上を目的とし、発言出来る会議の場を多くし、期間を決めた目標達成の為の取り組みを日々の業務を通じて行い、初心や、振り返ることをはじめ気づきの原点になるように取り組んでいます。

・家族をはじめ、地域の方々へ常時開放した施設になるように心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和6年3月19日	評価機関 評価決定日	令和6年9月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【概要】
当事業所は、市営地下鉄弘明寺駅から徒歩3分、又は京急線弘明寺駅から徒歩5分の利便性の良い場所に立地する3階建て3ユニットのグループホームである。事業所は、鎌倉街道から一本入った道沿いにあり、周辺は、静かな住宅地になっている。横浜国大附属中学校の北側に位置する事業所の正面には桜並木があり、春には桜の花見が楽しめる。商店街も近く、外出イベントの際に利用している。

【地域との絆を保った運営】
町内会に加入し、新型コロナ禍から現在まで町内会長との連携を継続しており、町内会長は、運営推進会のメンバーにもなっている。地域住民により、避難訓練時の見守りの協力もある。また、地域の商店街の祭りを外出の機会につなげ、交流を深めている。次年度に再開される地域の夏祭り等のイベントへの参加も期待されている。

【利用者の思いにあわせた食事の提供】
昼、夕食は調理専門のスタッフによって食材の調理を事業所内で行い、利用者が料理の音、香りを楽しむ機会を設けている。寿司が食べたいという声があがれば、嚥下に問題のある利用者も味わえるように、購入してきた刺し身を刻んでの海鮮丼を提供するイベントを実施し、希望に応じている。餃子と共にビールが飲みたい利用者には、外部の医療機関への受診に職員が同行した際、馴染みの店に立ち寄り希望を叶えている。楽しい食事を大切に考え、日々のケアで聞き取った利用者の望みの実現に向けて、職員は力を合わせている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。(参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有する為、共有部に貼り出し、全体会議やフロア会議で再認識する場を設け、常に理念を念頭におき日々のケアに取り組んでいます。	法人の経営理念と行動指針を掲げ、各フロアの事務所と1階の廊下に掲示して共有している。理念の中にある、「笑顔」を大切にケアに取り組み、職員の入れ替えがあった現在は、朝の申し送りですまず笑顔で挨拶し、毎日、笑顔で一日を始めるように心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策が5類になり、ご利用者の外出も増えた事で、地域の方々との関りが少しずつ増えています。	若宮三・四丁目町内会に加入し、回覧板にて地域の情報を得ている。代替わりした町内会長との関係も築いている。避難訓練への町内住民の協力の再開も予定されている。また職業訓練の高校生やボランティアの受け入れも再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症が5類になり、見学、相談を再開している。運営推進会議を通じて近隣の方へも事故事例や認知症対応の一例を提示しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が5類になり、運営推進委員会は隔月で実施しています。施設と地域での出来事等の報告を通じて、地域の事を知れています。地域の行事も少しずつ参加様にもしています。コロナ禍が落ち着いた為、3月より運営推進会議を再開しました。	2ヶ月に1回、対面にて開催している。メンバーは町内会長、大岡地域ケアプラザ担当職員、家族である。議事録を区の高齢・障害支援課に郵送している。災害対策が議題となった際、家族より「避難経路の参考にしてほしい」と災害区域のマップや避難経路図の提供があった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に電話での連絡を行い、協力関係構築に取り組んでいます。	生活保護受給の利用者を3名受け入れており、生活支援課と連絡を取り合っている。年に1回は、ケースワーカーの訪問がある。高齢・障害支援課とも協力関係を築くよう取り組んでいる。行政から研修の案内がメールで届いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	施設全体が利用者の自宅という思いを全職員が持ち危険のないよう見守りながら自由に過ごして頂いており、防犯目的での玄関の施錠以外ではしていません。	「身体拘束適正化委員会」を管理者、ケアマネジャー、フロアリーダーをメンバーに開催している。指針を整備し研修を年3回実施している。管理者は身体拘束の廃止は、本人の尊厳を大切に悪循環を止める思いで取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待を正しく理解出来るよう具体例を上げ勉強会を定期開催しています。身体拘束や、虐待を発生させない為、職員とのコミュニケーションを密に取り、面談を増やし相談しやすい環境作りをしています。	虐待防止の指針を定め、身体拘束適正化委員会とともに年2回委員会を実施している。委員会では、実際の虐待事例をあげて検討している。管理者は、自己点検シートの活用や、面談を実施するなどして、職員各々のストレスの把握とアドバイスに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性について、フロア毎に職員に周知をし、それにあわせた対応を取れるようにしています。当該者不在のフロア職員にも書面にて周知を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、利用者、家族に疑問点を作らないよう、十分な時間をかけ丁寧に説明するとともに、時間間わず質問、相談がしやすいようツールを増やす等環境を整え、迅速に柔軟に対応しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口をの周知をし、いつでも対応できるようにしています。外部評価での家族アンケート内容を全職員に周知をし、迅速に改善を図れるようにしています。	相談窓口を設け、電話やメールでのやり取りで意見の収集をしている。現在面会に制限は設けず、1階玄関近くの面談スペースを利用して実施している。意見や要望は「申し送りノート」や職員のグループLINEで共有している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議・職員面談を行い、話せる場を増やしてします。職員の長所を発見し本人へ伝え、改善すべき点は明確にし、一緒に考えていく時間を継続しています。	ケアカンファレンスを兼ねたフロア会議を毎月開催している。年1回は本部長を交えて全体会議を開催している。会議などで意見を述べる場を設けるほか、日々の会話でもじっくり話を聞く体制を整えている。職員からの日々のケアに関する意見や、物品購入の要望が多い。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特性に合わせた育成を目指しており、個性を活かせる環境づくりを心掛けています。自ら向上心を持てるよう本人の希望する研修へはできる限り参加できるようにしています。管理者とは別に上位者による面談も定期的実施しています。	人事考課の面談を年2回実施している。自己評価を基に管理者が評価をしている。健康診断は夜勤者は年2回、ほかの職員は年1回実施している。各フロアの事務所は、職員の休憩室を兼ねている。また休暇のシフトを調整し、職員が、月1回は、3連休が取れるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で各自の意見を反映させるようにしています。分からないことはライン等も活用し不安の解消を図っている。研修は自ら研修をに行きたい際は積極的に参加を支援している。	年間研修計画を作成し社内での研修を実施している。介護福祉士には資格手当を支給しており、職員の半分が介護福祉士の資格を取得している。外部研修の情報は回覧して周知している。	職員に目を配っての管理が行われております。防災や物品管理の担当などの役割分担を担ってもらう等、一人ひとりにあった明確な目標設定の助言を行うことを期待します。また出勤扱いで外部研修への参加を奨励する等、より積極的な職員の育成を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の各グループホーム連絡会へ所属しています。皆色々な悩みを伝える事が出来るので相談もできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまで、ご本人の不安や、困っていること、希望等を十分な時間をかけ聞くように心がけ、ラポールを築ける様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまでのご家族様の不安や悩み、要望を十分な時間をかけて聞くようにし、ご本人様と共により良い方向に考えられるように継続的に支援しています。ご家族の希望に応じたツールでのやり取りや不安や心配事へは時間を問わない対応を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な選択肢を提示し、自己解決ができるように支援します。電話相談でも、丁寧な対応を心がけ、相談者の状況に合わせて、市町村のサービス、介護保険サービス等を公平な立場で説明するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助を行っている以外の多くの時間で話し合う機会を持ち、お一人一人を知り、一緒に行動する事で信頼関係を築きながら支援してまいります。職員はご利用者の継続する時間の一部にのみ関わっている為、それ以外の時間への配慮を念頭に置いた対応を心掛けてまいります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	悩み、相談、不安など話しやすい状況、関係を築く事を優先して支援し、反面職員からも今までの生活歴や相談を行う事でコミュニケーションを密に取っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も再開し、友達に会う事も制限なく実施できるように戻りました。	近隣の友人が利用者の元を訪れた際は、家族の了承を得てもてなしている。手紙、年賀状の取り次ぎも行っている。馴染みの美容院に家族と出かける方や趣味の編み物を続けている方がいる。また愛飲家の利用者が飲酒を希望した際は、ノンアルコールビールを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を考えた座席や職員配置にし、無理なくコミュニケーションがはかれ、入居者様同士の良好な関係構築の為の支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば応じ、支援を行っています。サービス終了時にご家族へも相談可能な事を伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の立場になって考えながら、日常の様子、表情、話の内容や行動により汲み取り支援しています。	家族の他、入居前の病院相談員や居宅の担当ケアマネジャーの情報提供により思いの把握に努めている。利用者が、入浴時や散歩の際など職員とふたりになった際に思いを話す事があり、聞き取った内容を申し送りノートやグループLINEに記録して、共有している。利用者から馴染みの店での飲酒の希望があり、外部の医療機関への受診に職員が同行した際、中華料理店に立ち寄り、餃子とビールを楽しんでもらった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より今までの生活状況を聞き、それを職員で共有をし、入居後の会話で得た情報を記録に残し、全職員での把握に努めています。その為、個人記録とは別に職員の気付きを書く情報表を使用し、より早く情報共有が行えるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイル、ペースを尊重し、不安や困った事はないか等、現状把握に努め、共同生活での役割や居場所が見つかるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に関わる関係者から、今までの暮らしや役割などを聞き、本人の気持ちや、できる事できない事したい事をくみ取り介護計画に反映しています。また、情報は職員全員が共有出来るようにしています。	長期目標は介護保険期間とし短期目標はある。介護計画の個別支援計画は番号付けされている。職員は日々のケアにおいて介護計画を意識し、実施内容を個別支援計画の番号と共に記載しており、モニタリングとの連動をしている。家族からは「歩かせてほしい」との希望が多いので、散歩の実施が計画に盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の心身の様子、言動、些細な変化等も詳細に記録に残し、職員全体で共有し、定期的にモニタリングしプランの見直しをしています。個別支援計画に変更し、職員みずからが必要なケアを考え見つけて行くようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や状況により、マッサージ、体操教室等への対応等必要に応じて支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症が5類になり、周辺地域の支援によりイベント等の情報や設備の利用や参加を無理のないよう支援を再開しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様が安心して信頼出来るかかりつけ医を選択し、利用できるよう、複数の医療機関と連携をし支援しています。	利用者の選択により、現在3カ所の診療所がそれぞれ2回の訪問診療を行っている。訪問歯科は利用者と個別契約をして、月2回、口腔ケアと治療の為、来所している。看護師は健康チェックのため、週1回、来所している。外部医療機関の受診は、原則家族が対応している。家族から、医療情報を職員が聞き取って「往診ファイル」で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師による日常の健康管理を行い、必要に応じて個々のかかりつけ医と連携をはかっております。定期的に看護、介護でカンファレンスを行うい、お互いの気づきを情報交換し、適切な受診、看護を受けれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要に応じて病院に伺い病状や今後の対応について説明を受け、ご本人にとって最適な環境整備が出来るよう主治医との面談にも同席することがあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の身体の様子を詳細にご家族様に伝え、同時にかかりつけ医への相談を行い終末期の指針を定め、関係者で何度も相談をしチームケアでの支援に努めます。また、思いや方針が変わる事も想定し、臨機応変に対応しています。	入居時「看取り介護における対応方針」の説明を行い、同意を得ている。終末期との診断の後、医師、看護師、家族で話し合いを持ち、同意を取り交わし、看取り介護に移行している。今年度は1名の看取り実績がある。訪問看護師を講師とした看取りの研修を年1回実施している。看取り後の振り返りをフロア会議の中で実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応はマニュアル等で周知し、全職員で原因・対策について話し合い、再発防止に努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会や地域の消防署より情報を得ています。避難訓練の回数、内容を増やして実施、担当者による定期的な備蓄の確認をしています。消防署、地域の方と連携をした避難訓練を8月に行います。また、施設内の避難訓練結果は消防署にも報告しています。	夜間想定訓練も含め、火災や地震を想定した避難訓練を年4回実施している。消防署との連携を図っており、年1回消防署員が避難経路の確認に訪問している。BCPは法人にて整備している。災害備蓄は職員を含め35人の3日分の食品、熱源、防寒、消耗備品をリストを作成して、賞味期限などを管理している。次年度からは新型コロナ禍前同様に、避難訓練時に町内住民による見守りの協力を得られる予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解し丁寧な言葉での声掛け、対応を心がけ、また周囲の方を気にすることがないように、内容、声の大きさ等も考慮しています。	接遇・マナーと、倫理・法令遵守の研修年1回実施している。利用者の呼称は、原則、名字に「さん」付けで呼ぶとしている。申し送りの際や人前での会話は、部屋番号で行っている。個人情報を含む書類は鍵のかかる書棚で保管し、パソコンはパスワード管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いやすい雰囲気作り、1対1で時間をかけた対応をしています。自己決定が難しい方は、今までの生活歴等から簡単な質疑等工夫をし、可能な限りの自己決定の支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、本人のリズムやペースを大切にし、希望は最優先に検討し、可能な限り実行しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の導入、本人の希望を優先し、複数の選択肢の中から選べるような支援をしています。日常の整容や一緒に服を選ぶ等おしゃれを楽しめるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に負担にならないように配慮しながら、食事の盛り付けや片付けに参加頂いています。食事中も職員2名が同席し安全かつ器等視覚や雰囲気も楽しめるよう工夫しています。	食材は献立とともに業者から届いている。昼・夕食は調理専門職員が全フロア分を2階キッチンで調理している。刻みやミキサー食にも対応している。朝食は夜勤職員が調理している。テイクアウトの食材を利用して、ぼたもちや海鮮丼、インスタントラーメン作るイベントを実施して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや嚥下状態に合わせて提供。摂取水分量等記録から不足のないようにし、個々の状態に応じ形状をゼリーやトロミ、夏場はシャーベット等食感や味に変化をつけるなどの工夫をしています。時にはご家族にも協力をして頂き好物の差し入れをしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い口腔ケアを行っています。週1度の訪問歯科との連携を図り、職員は口腔ケアの指導を受け、常に義歯調整や清潔を保てるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を設置し、排尿・排便パターンの把握に努め、声掛け介助を行っています。食事、水分量、運動を含め医師へも相談し、スムーズな排便に繋がる支援しています。	排泄管理表で把握したパターンでの提示誘導や利用者の様子を見て随時誘導を行って、トイレでの排泄支援をしている。ベッド上でおむつ交換をしている方が4名いる。夜間は定時誘導を優先している。トイレは、1階2カ所、2階、3階には3箇所ある。日に2回程、職員が掃除、清掃している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より、個々の排便パターン、習慣の把握に努め、水分、食事、運動にて予防しています。また便通に適した運動やおやつを提供をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回を目安に行っている。それ以外でも希望に添えるようにしている。また外出等での曜日変更や時間調整にも対応し、心身共にリラックスし楽しめるよう1対1の対応で急かす事のない入浴を心掛けています。	週に2回の入浴を基本とし、利用者の体調に応じて、足浴・シャワー浴も実施している。同性介助の希望にも対応している。季節のゆず湯を行うほかに、入浴剤を用いて、入浴を楽しめる工夫をしている。好みのシャンプーを持ち込む方もいる。感染防止対策で、浴槽の湯は、ひとりずつ換えている。脱衣所にヒーターを設置し、ヒートショック対策もおこなっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し気温管理を行っています。生活習慣を大切に照明の明るさを調整したり、いつでもリラックスした休息がとれるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロア担当により管理、薬の作用や副作用の把握に努め、常に2人以上で確認し服薬介助を行っています。また事故を防ぐ為、薬準備等は薬剤師に依頼し、適宜相談をしながら、連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活できるように、出来る事は自分で行えるように支援。好きなこと得意なことの把握に努め本人の希望に添った支援をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物だけではなく、ドライブや少し距離を伸ばした場所への外出も再開しました。今後はコーヒーや食事外出等も計画しています。	毎日10時から11時に散歩を実施している。今年の正月には甘酒を飲むことを目的に弘明寺祭りに出かけた。近隣の商店街に出かけるなど、買い物の支援も行っている。4月にドライブを兼ねて花見に出掛ける計画もある。家族との外食や冠婚葬祭に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お小遣いをお預かりし所定の場所での保管をし、外出時や買い物の際は希望に応じお金を使用できるように支援しています。少額だが本人が管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があればいつでもやり取りができるよう支援しています。またご家族様から預かった手紙を毎日決められた時間に渡す支援もしています。また、レクの一環で押し花はがき作り、手紙の習慣の無い方にも楽しみ名が手紙通信に参加して貰っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには、利用者様と一緒に作成したものを飾り、季節感を出し目で楽しめるような工夫をしている、また誕生日や、ご家族様の写真を居室に飾っています。	リビングは採光が良く明るい。家具の配置を工夫して、動線を確保している。エアコン、空気清浄機、加湿器を設置して温・湿度を管理している。廊下の壁には、季節感のある作品やイベントの写真が飾られている。七夕には、職員が手配した竹に飾りつけをして、楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は全て自由に使用でき、ご利用者様同士の交流やくつろぎの場として利用して頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮し、家具等なじみの物を使用、設置していただき、入居後も本人の希望、生活パターンに合わせ穏やかに過ごせる環境作りに努めています。	居室には空調、防災カーテン、照明、ベッド、2階、3階はクローゼットが常設されている。利用者は、各々、好みの人形や思い出の品を持ち込み、家族写真を飾っている。仏壇を持ち込む方もいる。清掃は毎朝職員が行っている。清掃を手伝う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、分かることを大切にし手すりの設置、トイレの場所、居室などわかりやすく表示、本人の希望や安全を配慮した環境作りにつとめています。		

事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。(参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有する為、共有部に貼り出し、全体会議やフロア会議で再認識する場を設け、常に理念を念頭におき日々のケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策が5類になり、ご利用者の外出も増えた事で、地域の方々との関りが少しずつ増えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症が5類になり、見学、相談を再開している。運営推進会議を通じて近隣の方へも事件事例や認知症対応の一例を提示しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が5類になり、運営推進委員会は隔月で実施しています。施設と地域での出来事等の報告を通じて、地域の事を知れています。地域の行事も少しずつ参加様にもしています。コロナ禍が落ち着いた為、3月より運営推進会議を再開しました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に電話での連絡を行い、協力関係構築に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	施設全体が利用者の自宅という思いを全職員が持ち危険のないよう見守りながら自由に過ごして頂いており、防犯目的での玄関の施錠以外ではしていません。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待を正しく理解出来るよう具体例を上げ勉強会を定期開催しています。身体拘束や、虐待を発生させない為、職員とのコミュニケーションを密に取り、面談を増やし相談しやすい環境作りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性について、フロア毎に職員に周知をし、それにあわせた対応を取れるようにしています。当該者不在のフロア職員にも書面にて周知を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、利用者、家族に疑問点を作らないよう、十分な時間をかけ丁寧に説明をするとともに、時間問わず質問、相談がしやすいようツールを増やす等環境を整え、迅速に柔軟に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談等窓口を周知をし、いつでも対応できるようにしています。外部評価での家族アンケート内容を全職員に周知をし、迅速に改善を図れるようにしています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議・職員面談を行い、話せる場を増やしてします。職員の長所を発見し本人へ伝え、改善すべき点は明確にし、一緒に考えていく時間を継続しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特性に合わせた育成を目指しており、個性を活かせる環境づくりを心掛けています。自ら向上心を持てるよう本人の希望する研修へはできる限り参加できるようにしています。管理者とは別に上位者による面談も定期的実施しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で各自の意見を反映させるようにしています。分からないことはライン等も活用し不安の解消を図っている。研修は自ら研修を行きたい際は積極的に参加を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の各グループホーム連絡会へ所属しています。皆色々な悩みを伝える事が出来るので相談もできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまで、ご本人の不安や、困っていること、希望等を十分な時間をかけ聞くように心がけ、ラポールを築ける様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまでのご家族様の不安や悩み、要望を十分な時間をかけて聞くようにし、ご本人様と共により良い方向に考えられるように継続的に支援しています。ご家族の希望に応じたツールでのやり取りや不安や心配事へは時間を問わない対応を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な選択肢を提示し、自己解決ができるように支援します。電話相談でも、丁寧な対応を心がけ、相談者の状況に合わせて、市町村のサービス、介護保険サービス等を公平な立場で説明するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助を行っている以外の多くの時間で話し合う機会を持ち、お一人一人を知り、一緒に行動する事で信頼関係を築きながら支援してまいります。職員はご利用者の継続する時間の一部にのみ関わっている為、それ以外の時間への配慮を念頭に置いた対応を心掛けてまいります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	悩み、相談、不安など話しやすい状況、関係を築く事を優先して支援し、反面職員からも今までの生活歴や相談を行う事でコミュニケーションを密に取っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も再開し、友達に会う事も制限なく実施できるように戻りました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を考えた座席や職員配置にし、無理なくコミュニケーションがはかれ、入居者様同士の良好な関係構築の為の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば応じ、支援を行っています。サービス終了時にご家族へも相談可能な事を伝えていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の立場になって考えながら、日常の様子、表情、話の内容や行動により汲み取り支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より今までの生活状況を聞き、それを職員で共有をし、入居後の会話で得た情報を記録に残し、全職員での把握に努めています。その為、個人記録とは別に職員の気付きを書く情報表を使用し、より早く情報共有が行えるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイル、ペースを尊重し、不安や困った事はないか等、現状把握に努め、共同生活での役割や居場所が見つかるような支援をしています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に関わる関係者から、今までの暮らしや役割などを聞き、本人の気持ちや、できる事できない事したい事をくみ取り介護計画に反映しています。また、情報は職員全員が共有出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の心身の様子、言動、些細な変化等も詳細に記録に残し、職員全体で共有し、定期的にモニタリングシプランの見直しをしています。個別支援計画に変更し、職員みずからが必要なケアを考え見つけて行くようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や状況により、マッサージ、体操教室等への対応等必要に応じて支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症が5類になり、周辺地域の支援によりイベント等の情報や設備の利用や参加を無理のないよう支援を再開しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様が安心して信頼出来るかかりつけ医を選択し、利用できるよう、複数の医療機関と連携をし支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師による日常の健康管理を行い、必要に応じて個々のかかりつけ医と連携をはかっております。定期的に看護、介護でカンファレンスを行うい、お互いの気づきを情報交換し、適切な受診、看護を受けれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要に応じて病院に伺い病状や今後の対応について説明を受け、ご本人にとって最適な環境整備が出来るよう主治医との面談にも同席することがあります。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の身体の様子を詳細にご家族様に伝え、同時にかかりつけ医への相談を行い終末期の指針を定め、関係者で何度も相談をしチームケアでの支援に努めます。また、思いや方針が変わる事も想定し、臨機応変に対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応はマニュアル等で周知し、全職員で原因・対策について話し合い、再発防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会や地域の消防署より情報を得ています。避難訓練の回数、内容を増やして実施、担当者による定期的な備蓄の確認をしています。消防署、地域の方と連携をした避難訓練を8月に行います。また、施設内の避難訓練結果は消防署にも報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解し丁寧な言葉での声掛け、対応を心がけ、また周囲の方を気にすることがないように、内容、声の大きさ等も考慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いやすい雰囲気作り、1対1で時間をかけた対応をしています。自己決定が難しい方は、今までの生活歴等から簡単な質疑等工夫をし、可能な限りの自己決定の支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、本人のリズムやペースを大切にし、希望は最優先に検討し、可能な限り実行しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の導入、本人の希望を優先し、複数の選択肢の中から選べるような支援をしています。日常の整容や一緒に服を選ぶ等おしゃれを楽しめるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に負担にならないように配慮しながら、食事の盛り付けや片付けに参加頂いています。食事中も職員2名が同席し安全かつ器等視覚や雰囲気も楽しめるよう工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや嚥下状態に合わせて提供。摂取水分量等記録から不足のないようにし、個々の状態に応じ形状をゼリーやトロミ、夏場はシャーベット等食感や味に変化をつけるなどの工夫をしています。時にはご家族にも協力をして頂き好物の差し入れをしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い口腔ケアを行っています。週1度の訪問歯科との連携を図り、職員は口腔ケアの指導を受け、常に義歯調整や清潔を保てるようにしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を設置し、排尿・排便パターンの把握に努め、声掛け介助を行っています。食事、水分量、運動を含め医師へも相談し、スムーズな排便に繋がる支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より、個々の排便パターン、習慣の把握に努め、水分、食事、運動にて予防しています。また便通に適した運動やおやつを提供をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回を目安に行っている。それ以外でも希望に添えるようにしている。また外出等での曜日変更や時間調整にも対応し、心身共にリラックスし楽しめるよう1対1の対応で急かす事のない入浴を心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し気温管理を行っています。生活習慣を大切に照明の明るさを調整したり、いつでもリラックスした休息がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロア担当により管理、薬の作用や副作用の把握に努め、常に2人以上で確認し服薬介助を行っています。また事故を防ぐ為、薬準備等は薬剤師に依頼し、適宜相談をしながら、連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活できるよう、出来る事は自分で行えるように支援。好きなこと得意なことへの把握に努め本人の希望に添った支援をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物だけではなく、ドライブや少し距離を伸ばした場所への外出も再開しました。今後はコーヒーや食事外出等も計画しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お小遣いをお預かりし所定の場所での保管をし、外出時や買い物の際は希望に応じお金を使用できるように支援しています。少額だが本人が管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があればいつでもやり取りができるよう支援しています。またご家族様から預かった手紙を毎日決められた時間に渡す支援もしています。また、レクの一環で押し花はがき作り、手紙の習慣の無い方にも楽しみ名が手紙通信に参加して貰っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには、利用者様と一緒に作成したものを飾り、季節感を出し目で楽しめるような工夫をしている、また誕生日や、ご家族様の写真を居室に飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は全て自由に使用でき、ご利用者様同士の交流やくつろぎの場として利用して頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮し、家具等なじみの物を使用、設置していただき、入居後も本人の希望、生活パターンに合わせ穏やかに過ごせる環境作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、分かることを大切にし手すりの設置、トイレの場所、居室などわかりやすく表示、本人の希望や安全を配慮した環境作りにつとめています。		

事業所名	グループホームみのり 若さん・宮さん
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。(参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有する為、共有部に貼り出し、全体会議やフロア会議で再認識する場を設け、常に理念を念頭におき日々のケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策が5類になり、ご利用者の外出も増えた事で、地域の方々との関りが少しずつ増えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症が5類になり、見学、相談を再開している。運営推進会議を通じて近隣の方へも事件事例や認知症対応の一例を提示しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が5類になり、運営推進委員会は隔月で実施しています。施設と地域での出来事等の報告を通じて、地域の事を知れています。地域の行事も少しずつ参加様にもしています。コロナ禍が落ち着		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に電話での連絡を行い、協力関係構築に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	施設全体が利用者の自宅という思いを全職員が持ち危険のないよう見守りながら自由に過ごして頂いており、防犯目的での玄関の施錠以外ではしていません。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待を正しく理解出来るよう具体例を上げ勉強会を定期開催しています。身体拘束や、虐待を発生させない為、職員とのコミュニケーションを密に取り、面談を増やし相談しやすい環境作りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性について、フロア毎に職員に周知をし、それにあわせた対応を取れるようにしています。当該者不在のフロア職員にも書面にて周知を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、利用者、家族に疑問点を作らないよう、十分な時間をかけ丁寧に説明をするとともに、時間問わず質問、相談がしやすいようツールを増やす等環境を整え、迅速に柔軟に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談等窓口を周知をし、いつでも対応できるようにしています。外部評価での家族アンケート内容を全職員に周知をし、迅速に改善を図れるようにしています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議・職員面談を行い、話せる場を増やしてします。職員の長所を発見し本人へ伝え、改善すべき点は明確にし、一緒に考えていく時間を継続しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特性に合わせた育成を目指しており、個性を活かせる環境づくりを心掛けています。自ら向上心を持てるよう本人の希望する研修へはできる限り参加できるようにしています。管理者とは別に上位者による面談も定期的実施しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で各自の意見を反映させるようにしています。分からないことはライン等も活用し不安の解消を図っている。研修は自ら研修を行きたい際は積極的に参加を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の各グループホーム連絡会へ所属しています。皆色々な悩みを伝える事が出来るので相談もできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまで、ご本人の不安や、困っていること、希望等を十分な時間をかけ聞くように心がけ、ラポールを築ける様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまでのご家族様の不安や悩み、要望を十分な時間をかけて聞くようにし、ご本人様と共に良い方向に考えられるように継続的に支援しています。ご家族の希望に応じたツールでのやり取りや不安や心配事へは時間を問わない対応を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な選択肢を提示し、自己解決ができるように支援します。電話相談でも、丁寧な対応を心がけ、相談者の状況に合わせて、市町村のサービス、介護保険サービス等を公平な立場で説明するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助を行っている以外の多くの時間で話し合う機会を持ち、お一人一人を知り、一緒に行動する事で信頼関係を築きながら支援しています。職員はご利用者の継続する時間の一部にのみ関わっている為、それ以外の時間への配慮を念頭に置いた対応を心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	悩み、相談、不安など話しやすい状況、関係を築く事を優先して支援し、反面職員からも今までの生活歴や相談を行う事でコミュニケーションを密に取っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も再開し、友達に会う事も制限なく実施できるように戻りました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を考えた座席や職員配置にし、無理なくコミュニケーションがはかれ、入居者様同士の良好な関係構築の為の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば応じ、支援を行っています。サービス終了時にご家族へも相談可能な事を伝えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の立場になって考えながら、日常の様子、表情、話の内容や行動により汲み取り支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より今までの生活状況を聞き、それを職員で共有をし、入居後の会話で得た情報を記録に残し、全職員での把握に努めています。その為、個人記録とは別に職員の気付きを書く情報表を使用し、より早く情報共有が行えるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活スタイル、ペースを尊重し、不安や困った事はないか等、現状把握に努め、共同生活での役割や居場所が見つかるような支援をしています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に関わる関係者から、今までの暮らしや役割などを聞き、本人の気持ちや、できる事できない事したい事をくみ取り介護計画に反映しています。また、情報は職員全員が共有出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の心身の様子、言動、些細な変化等も詳細に記録に残し、職員全体で共有し、定期的にモニタリングシプランの見直しをしています。個別支援計画に変更し、職員みずからが必要なケアを考え見つけて行くようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や状況により、マッサージ、体操教室等への対応等必要に応じて支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症が5類になり、周辺地域の支援によりイベント等の情報や設備の利用や参加を無理のないよう支援を再開しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族様が安心して信頼出来るかかりつけ医を選択し、利用できるよう、複数の医療機関と連携をし支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師による日常の健康管理を行い、必要に応じて個々のかかりつけ医と連携をはかっております。定期的に看護、介護でカンファレンスを行うい、お互いの気づきを情報交換し、適切な受診、看護を受けれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時必要に応じて病院に伺い病状や今後の対応について説明を受け、ご本人にとって最適な環境整備が出来るよう主治医との面談にも同席することがあります。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の身体の様子を詳細にご家族様に伝え、同時にかかりつけ医への相談を行い終末期の指針を定め、関係者で何度も相談をしチームケアでの支援に努めます。また、思いや方針が変わる事も想定し、臨機応変に対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応はマニュアル等で周知し、全職員で原因・対策について話し合い、再発防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会や地域の消防署より情報を得ています。避難訓練の回数、内容を増やして実施、担当者による定期的な備蓄の確認をしています。消防署、地域の方と連携をした避難訓練を8月に行います。また、施設内の避難訓練結果は消防署にも報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解し丁寧な言葉での声掛け、対応を心がけ、また周囲の方を気にすることがないように、内容、声の大きさ等も考慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いやすい雰囲気作り、1対1で時間をかけた対応をしています。自己決定が難しい方は、今までの生活歴等から簡単な質疑等工夫をし、可能な限りの自己決定の支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して、本人のリズムやペースを大切にし、希望は最優先に検討し、可能な限り実行しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の導入、本人の希望を優先し、複数の選択肢の中から選べるような支援をしています。日常の整容や一緒に服を選ぶ等おしゃれを楽しめるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に負担にならないように配慮しながら、食事の盛り付けや片付けに参加頂いています。食事中も職員2名が同席し安全かつ器等視覚や雰囲気も楽しめるよう工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや嚥下状態に合わせて提供。摂取水分量等記録から不足のないようにし、個々の状態に応じ形状をゼリーやトロミ、夏場はシャーベット等食感や味に変化をつけるなどの工夫をしています。時にはご家族にも協力をして頂き好物の差し入れをしてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い口腔ケアを行っています。週1度の訪問歯科との連携を図り、職員は口腔ケアの指導を受け、常に義歯調整や清潔を保てるようにしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を設置し、排尿・排便パターンの把握に努め、声掛け介助を行っています。食事、水分量、運動を含め医師へも相談し、スムーズな排便に繋がる支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より、個々の排便パターン、習慣の把握に努め、水分、食事、運動にて予防しています。また便通に適した運動やおやつを提供をしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回を目安に行っている。それ以外でも希望に添えるようにしている。また外出等での曜日変更や時間調整にも対応し、心身共にリラックスし楽しめるよう1対1の対応で急かす事のない入浴を心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し気温管理を行っています。生活習慣を大切に照明の明るさを調整したり、いつでもリラックスした休息がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロア担当により管理、薬の作用や副作用の把握に努め、常に2人以上で確認し服薬介助を行っています。また事故を防ぐ為、薬準備等は薬剤師に依頼し、適宜相談をしながら、連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活できるよう、出来る事は自分で行えるように支援。好きなこと得意なことの把握に努め本人の希望に添った支援をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物だけではなく、ドライブや少し距離を伸ばした場所への外出も再開しました。今後はコーヒーや食事外出等も計画しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お小遣いをお預かりし所定の場所での保管をし、外出時や買い物の際は希望に応じお金を使用できるように支援しています。少額だが本人が管理している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があればいつでもやり取りができるよう支援しています。またご家族様から預かった手紙を毎日決められた時間に渡す支援もしています。また、レクの一環で押し花はがき作り、手紙の習慣の無い方にも楽しみ名が手紙通信に参加して貰っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには、利用者様と一緒に作成したものを飾り、季節感を出し目で楽しめるような工夫をしている、また誕生日や、ご家族様の写真を居室に飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は全て自由に使用でき、ご利用者様同士の交流やくつろぎの場として利用して頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮し、家具等なじみの物を使用、設置していただき、入居後も本人の希望、生活パターンに合わせ穏やかに過ごせよう家具の配置等環境作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、分かることを大切にし手すりの設置、トイレの場所、居室等わかりやすく、一緒に作成した工作物で表示したり、本人の希望や安全を配慮した環境作りにつとめています。		

目標達成計画

事業所名 グリーンコーポレーション若狭支店

作成日 2024年9月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育成する	一人一人に対して明確な目標設定を促し、外部研修参加を促していく	参加したい研修や取得したい資格のリストを取り、介助の実践者研修の受講を支援していく。	2年間
2			一人一人の得意な領域を明確にする	本年度は2名が参加予定 料理、体操、パソコン ITの活用者と共に楽しめ 時間を活用できるようにする	1年間
3		防災に関する取組み 備品の追加・点検	避難訓練を自由実施していく。 消防署と連携し 3Dマップを作成していく	自由な2ヶ月に1回 避難訓練を行う。 消防署との連携を 実施し、3Dマップ	1年間
4				介護、片付けの工夫、 障がい者の集い強さを 行っている。	
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。